

令和6年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都のすばらしさや自らの考えを世界に発信できるグローバル化時代に対応する実践的英語力の育成、また小・中・小中・高等学校を通じた英語力を育成するため、英語教育の充実を図るとともに、ALTとのTTをはじめ、生きた英語に触れる機会や、英語によるコミュニケーションが求められる環境を意図的に設定する。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①教育委員会主催研修を充実させたり、授業映像や研修動画等ポータルサイト活用を促進させたりすることで、授業改善が進んだ。
- ②CAN-DOリスト形式の学習到達目標を全市中学校ブロックで小学校と共有し、小中連携の足掛かりとした。

未だ改善が必要な点

- ①英語教育実施状況調査の結果、授業における、児童の英語による言語活動の占める割合が50%以上が令和5年度88.9%で令和5年度の全国平均と比べても改善が必要である。
- ②目標達成状況をどのように評価するのか（評価基準の設定とパフォーマンス評価）を明確に理解できている指導者がまだ少ない。
- ③小中高連携の更なる推進
- ④指導者の英語力向上

2. 要因分析

- ①誰に対してどんな研修が必要なのかを明確にし、多様な研修を開催した。理論研修等の各種動画を随時更新。Teamsの活用を促進することで専科教員同士の情報共有の機会が増えている。
- ②CAN-DOリストの加筆修正を促し、中学校ブロックで共有することで作ることが目的ではなく活用に繋がっている。

- ①「言語活動を通じた指導」についての理解が進んでいる故のシビアな見立てと分析している。
- ②本市独自の「小学校外国語評価ガイドブック」を令和6年度版に改訂し、理論研修動画も再編したが、専科が増えたことや、継続して英語専科とならない者も多く、周知や理解が不十分。
- ③教育委員会の担当者が互いの校種の研修会や英語担当者会議に参加するなどして情報共有した。しかし、校種間連携の必要性や研修講座の魅力的なテーマについて、協議する時間が不足していた。そのため、学校に対しても周知や呼掛けが不十分であった。
- ④自己研鑽の時間や機会が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①**全教員**：授業力向上研修会年2回開催、選択講座での指導助言、研修動画・授業動画・京都市スタンダード及び評価ガイドブック作成ポータルサイトにUP、「English Exchange : ALT & You」(ALTとのSmall Talk実践)、小学校英語夏季指導講座、教員が指導主事にオンラインで相談できる主事相談会を毎月開催。

専科：小学校英語専科教員等研修会、「小学校英語指導者支援事業」学校指導課参与派遣、指導主事による専科訪問・巡回指導

若手：授業力向上研修会、選択講座での指導助言

- ②**その他**：「小学校外国語評価ガイドブック」を作成しCAN-DOリストを例示。Teamsを活用し原本を共有することで、各校の実態に応じた加筆修正を随時図る。中学校ブロックごとに共有。

- ①理論研修動画を再編し、様々な研修の中でも、授業における具体的な姿を示す。令和5年度から英語アプリ「キソサポ」を試行導入し、児童が授業とは別の目的や場面、状況設定の中で表現に出合う工夫をし、言語活動の機会に生かせる英語力向上ツールとして授業や家庭学習で活用(アンケートで検証を行う)。言語活動を通じた授業実践をコメント入り授業動画にし、全市に配信。Mextchannelの新作動画TEAMS等を活用し周知。
- ②各校1名以上参加の「評価についての悉皆研修」を開催。「評価ガイドブック」を令和6年度版に改訂し、指導と評価の一体化や評価についての理解を一層図る。
- ③英語教育に関する各種研修会は全校種で参加可能とする。小英研と中英研が窓口となり、中学校の支部研修会(英語科授業)に小学校の指導者も参加できる様にする。教育委員会の英語担当者会における意見交流の場を設定。
- ④English Exchange : ALT & You (ALTとのSmall Talk実践)の拡大、研究会参加時間を勤務時間内に創出する。英語アプリ「キソサポ」での学習状況の分析による先生向け報告会の実施、アプリ「Terra Talk」での英語力向上機会の保障。また、採用試験において、「英語」の中学もしくは高校の普通免許状を有する者への加点措置を実施。

令和6年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都のすばらしさや自らの考えを世界に発信できるグローバル化時代に対応する実践的英語力の育成、また小・中・小中・高等学校を通じた英語力を育成するため、英語教育の充実を図るとともに、ALTとのTTをはじめ、生きた英語に触れる機会や、英語によるコミュニケーションが求められる環境を意図的に設定する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：55.3%⇒R6：60%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「話すこと」「やりとり」、〔発表〕及び「書くこと」を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテストのパフォーマンステストの実施状況

R4:82.4%⇒R5:83.7%

未だ改善が必要な点

- ①英語担当教員の英語力の向上
- ②小中高連携の更なる推進
- ③50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が低下
(R4:80.1%⇒R5:70.2%)
- ④R5全国学力・学習状況調査の結果から、「書くこと」の正答率の低さが見られた。

2. 要因分析

①「何が出来るようになるか」ということに主眼をおき、英語科の実技教科的側面に焦点を当て、授業改善をしている。特に定期テストに頼り過ぎず、単元毎のパフォーマンステストの実施を奨励し、令和2年度は学期に1回の実施だったところを複数回実施する学校が増加。
しかし、量・質ともに更なる改善が求められる。

- ①教材研究等に時間を要しており、自己研鑽の時間が不足している。
- ②各校種の指導主事や行政担当者が、校種間連携の必要性や研修講座の魅力的なテーマについて、協議する場、また学校に対する周知が不足していた。
- ③授業を英語で行い、授業の大半を言語活動に費やし英語科の実技的側面に焦点を当てた授業を全市展開した結果、コミュニケーションの下支えとなる言語材料への理解が不足している。
- ④各校での帯時間においても「話すこと」に軸足を置いた発信領域の育成に注力してきたが、「書くこと」については指導の不十分があった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①引き続きパフォーマンステストの充実を図るための研修会を実施するとともに、アウトプットに向けた十分なインプットをするために英語学習アプリの活用を進める。また、聞くこと・読むことから力を付け、発信能力の向上に導いていけるように授業改善を図り、その成果をパフォーマンステスト（ユニット毎の実施等）や外部テスト（TOEFL Primary等）で測るという流れを作る。

- ①教員用に英語学習アプリを試行導入し、隙間時間や週末に「いつでもどこでも」学べる環境を創出。
- ②小学校英語指導講座、外国語小中高合同講座、中学校英語科教員指導力向上講座、高等学校英語教科指導講座等の、小中高合同実施の教科指導講座を実施し、更なる連携を進める。（いずれも全校種で参加可能）
- ③言語活動を通じた指導で知識・技能を活用し思考力、判断力、表現力等を育成している授業映像を配信するとともに、それを基にした指導力向上講座を実施。
- ④ALTの参画による「書くこと」の活動を促進。積み重ねてきた「話すこと」に軸足を置いた帯時間に「書くこと」も取り入れ、「話すこと」と「書くこと」の往還を意識した指導を心掛ける。

令和6年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都のすばらしさや自らの考えを世界に発信できるグローバル化時代に対応する実践的英語力の育成、また小・中・小中・高等学校を通じた英語力を育成するため、英語教育の充実を図るとともに、A L Tとの T Tをはじめ、生きた英語に触れる機会や、英語によるコミュニケーションが求められる環境を意図的に設定する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 80.5%、B1以上 27.2% ⇒R6 : A2以上 85%、B1以上 30%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①新学習指導要領の目標達成を実現するための授業改善の推進。
(生徒の言語活動 :
R4 72.9%→R5 78.4%)
- ②生徒の発信力を高めるパフォーマンステストの検討・実施。
(Speaking CEFR A2以上 :
R4 91.9%→R5 96.9%
Listening CEFR A2以上 :
R4 65.4%→R5 70.7%
GTEC 高2生全体)

未だ改善が必要な点

- ①パフォーマンステスト「話すこと」「書くこと」の効果的な実施と言語活動をさらに充実させるための教師の英語使用促進
(教師の発話 :
R4 66.0%→R5 54.9%)
- ②「やり取り」を通して即興性を育成する言語活動の充実。
- ③小中高連携の更なる推進。

2. 要因分析

①②「評価検討委員会（校長会主催による）」を軸に、高等学校外国語科における観点別学習状況の評価のあり方の議論、年間指導計画の検討を行い、教員の授業改善と生徒の学習改善につなげることができた。

①②効果的なパフォーマンステストを検討していくなかで「話すこと」「書くこと」の両方を実施することは減少しているが、生徒の発信力はGTECの結果から見ても向上しており、引き続き効果的なパフォーマンステストの精選が必要である。「やり取り」を通して即興性や発信力を育成することは授業内での言語活動だけではなく、パフォーマンステストにおいてもさらに促進していく必要がある。

③令和5年度も校種間連携を実践交流を通して実践したが、各校種において魅力的な連携講座、例えば小中・中高の接続に関するテーマを設定することが難しかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②令和6年度も評価検討委員会を実施する。令和5年度は各校で実施しているパフォーマンステストと生徒の成果物を持ち寄り、パフォーマンステストの質の向上のために議論を進めた。今年度も委員会内での共有を進めるとともに、教師の発話による生徒の英語力の向上につながる事例を含め、全市立高校にも随時情報を共有する。

また、「実践的英語力測定調査事業」として各校でGTEC（4技能）を実施し、その結果をもとにして分析会を実施する。分析会において、各校の授業実践を客観的に振り返り、指導改善につなげる。

<R6 生徒の英語力の目標>

- ・CEFR A2 達成率85%
- ・CEFR B1 達成率30%

③小学校英語指導講座、外国語小中高合同講座、中学校英語科教員指導力向上講座、高等学校英語教科指導講座等の、小中高合同実施の教科指導講座を実施し、更なる連携を進める。（いずれも全校種で参加可能）

京都市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	85	80.5	85		86		87		88		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	27.2	30以上		30以上		30以上		30以上		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	94	78.4	80		81		82		83		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	56.9	75		76		77		78		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	91.7	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	94	93.6	94		95		96		97		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	54.9	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60以上	55.3	60以上		60以上		60以上		60以上		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	70.2	75		76		77		78		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	83.7	85		86		87		88		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	94.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	90.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	55	54.1	55		56		57		58		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	63.7	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	60	57	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	84.8	100		100		100		100